



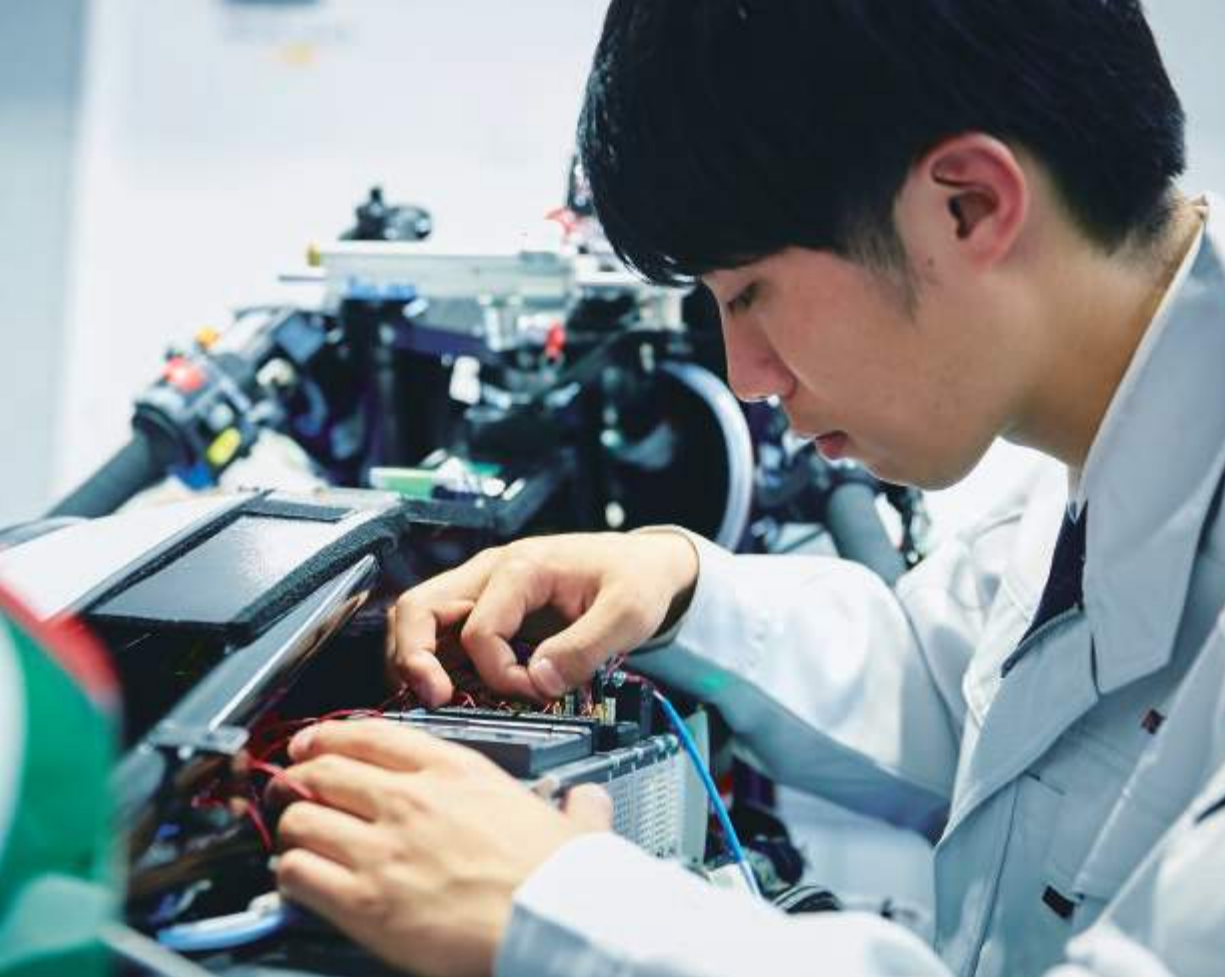
より詳しい情報は、採用サイトにて公開中!

モビテック

検索



株式会社 **モ**ビテック



モビテックの技術者は、全員が開発を行います。

「開発がしたい」「もっと成長したい」という想いを原動力に、

特定の技術分野における開発に長く携わり続ける。

これがモビテック流です。

技術を深掘りし、極めていく。

そうすることで、厳しい競争の中で生き抜く力が身に付き

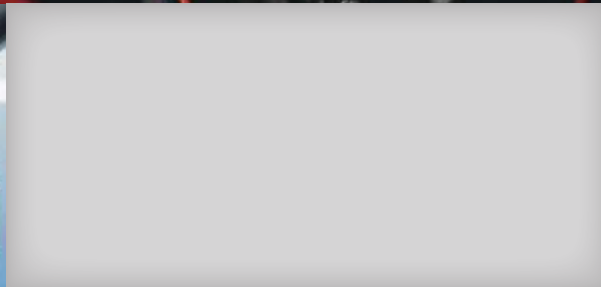
エンジニアを生涯の仕事にすることができます。



これをやりたい という想いを ずっと

貫く。

ことで、 生き抜く力が 身に付く。



2011年、自社でEVバイクの開発を開始。

何年も開発を続けたものの、失敗の連続でした。

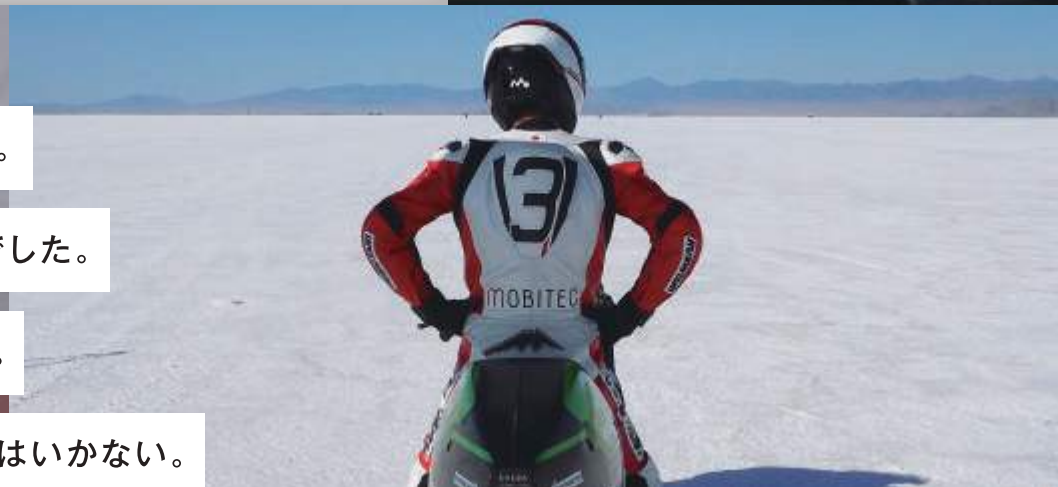
それでも、諦めることはありませんでした。

掲げた目標に達しないまま、やめるわけにはいかない。

8年間という長い期間、その想いを貫きました。

そして2019年、世界最高速記録を樹立しました。

技術は、長く貫くことで、大きな花を咲かせます。



MESSAGE

メッセージ

長く、 貫く。 技術を極める。

生涯、開発に挑戦し続けられるモビテック。

技術者としてブレない意志を長く貫き、

技術を極めていく。

そんな働き方ができる環境で、

あなたも長く貫くキャリアをスタートさせませんか。

「クルマの頭脳」を開発する。

OVERVIEW

モビテックは1985年の創業以来、自動車基幹ユニットの開発に特化してきました。中でも、最も長く開発を行ってきた製品がトランスミッション（変速機）です。世界シェアNo.1メーカーの開発パートナーとして、オートマチックトランスミッション（A/T）や無段変速機（CVT）、ハイブリッドシステム（HV）の開発を行っています。35年以上培った技術を活かし、高い安全性や精密性、快適なドライブフィーリングを実現しています。

▶ 実験評価

市場での使われ方を模擬した評価方法を考案し、実車や試験機を使用して最適な条件での実験評価を行っています。想定される現象や不具合を顕在化し、解析結果を設計にフィードバックすることで魅力ある製品開発に貢献しています。

▶ CAE解析

CAE(Computer Aided Engineering)とは、設計段階において、構造、振動、熱流体などの想定される現象をコンピュータ上でシミュレーションすること。品質とスピードを向上させると共に、試作や試験評価を減らせることから、自動車や家電などあらゆる分野の製品開発の現場で必須の技術とされています。当社は、長年自動車業界で培った設計のノウハウと、解析技術を融合させることで付加価値を生み出し、開発現場に貢献しています。

▶ 機械・機構設計

クライアントが要求する高い性能・機能を各分野の専門知識や高度な技術により、最善最良の設計で応えます。また、開発する中で評価や解析、実験結果からフィードバックされた課題に対し、新たな設計見解から真因を突き止め、対策していきます。また、培われたノウハウを活かし、次世代技術の発展にも貢献していきます。

▶ 制御・適合

制御・適合とは、変速時車両G挙動（変速フィール）を設計する業務です。ユーザーが求める車両キャラクターに応じた変速時車両G挙動を定め、エンジン特性（MAXトルク、アイドル回転、ペダルマップ、過渡特性など）から最適な油圧制御を設計・評価します。車両の商品性に大きく関わる業務です。

▶ NV解析

NV(Noise・Vibration)解析は振動・騒音を測定し、発生要因を洗い出す業務です。高速フーリエ変換(FFT)、伝達経路解析(TPA)、モーダル解析などの解析技術を駆使して、問題となる振動の周波数、伝達経路、動き方を特定します。得られた結果を基に開発を行うことで、製品の付加価値向上に貢献します。

「クルマの神経・血管」を開発する。

OVERVIEW

電気自動車・ハイブリッド車の普及や自動車の機能増加に伴い、自動車に搭載される電気・電子機器は年々増加しています。自動車全体に配置された電気・電子機器に電気を供給し、信号を伝える役割をつかさどる部品がワイヤーハーネスです。いわば、「クルマの神経や血管」とも言える重要な部品です。

▶ 回路設計

自動車には100近いシステムが搭載されています。ハイブリッド車や電気自動車、燃料電池車など、新しい分野の自動車もどんどん増えています。今後は自動運転など、更に新たなシステムが搭載されていき、自動車の回路数は増大の一途を辿っています。それら様々なシステムに、電源や信号など、車両全体の回路を成立させる業務です。

▶ 部品設計

ワイヤーハーネスには、経路を規制したり、電線を保護したり、コネクタを固定する目的で、プロテクターやコネクタホルダーと呼ばれる樹脂部品が搭載されています。この樹脂部品の設計を専門的に担うのが部品設計です。部品設計は、金型要件だけでなく、車両要件、ワイヤーハーネスの製造要件など、様々なノウハウが必要な業務です。

▶ 経路設計

経路設計とは、自動車内において、ワイヤーハーネスが何処を通り、何処に固定し、どんな外装材を使用するかを決めていく業務です。言葉では簡単ですが、ボデーや内装、各搭載部品、更には内外装デザイン、工場での組付けなど、様々な要件を考慮しながら設計を行っています。

▶ 開発業務

ワイヤーハーネスは、電線、端子、コネクタ、外装、クランプ、各電子部品など、様々な部品で構成されています。それら各部品の要件を満足させ、且つワイヤーハーネスの生産性を考慮した設計が必要となります。車両の要件、ワイヤーハーネスとしての要件、それら全体の取りまとめを担う業務です。



BUSINESS INTRODUCTION

事業紹介

DIGITAL ENGINEERING

自動車業界で 培った技術を活かし、 更なる飛躍を。

トランスミッション、ワイヤーハーネス事業に
続く、第3の柱として力を入れているのが
デジタルエンジニアリング領域です。近年、
企業の生産性を高める目的で経済産業省
がデジタルトランスフォーメーション(DX)
化を推進しています。今後、モノづくりに
においてもデジタル化が加速することが予測
されています。当社は長年の自動車開発に
おける技術支援を通じて、デジタル技術に
精通した技術者が多数在籍しています。精度
に厳しい自動車業界で培った技術を活かし、
製造業全体のデジタル化とデジタル技術
の活用を促進する「デジタルコンサルタント」
を目指した活動を展開しています。

▶ CAD教育

長年、自動車業界でCADを使用した設計の経験を積んできた
モビテック。開発に従事している技術者が必要なCADスキルを
習得するために培ってきた、実践に基づいた教育内容があり、現在は
自動車大手メーカーの技術者に対するCAD教育を行っています。
今後はCADの導入支援から教育・保守・サポートまで、一貫して
対応することを見据え活動を行っています。

▶ 設計～モノづくり

長年、モノづくりの開発業務に従事してきたからこそ、あらゆる
イメージを正確に形にするノウハウがあります。設計からデジタル
データの作成、モノづくりまでを一貫して対応しています。顧客の
開発工程の改善に取り組み、「開発コストの低減」、「開発期間の
短縮」を実現しています。

▶ 3次元測定 (リバースエンジニアリング)

現物を3次元測定(スキャニング)し、その測定データを基に3D
データ化する技術です。現物はあるが3Dデータや図面寸法が無い
場合、あるいは現物とCADデータの比較や製品形状変更前と
変更後のデータを重ね合わせて比較検証するなど活用方法は多岐
にわたります。

▶ CADツール開発

CADの操作を半自動化して、CADをもっと便利に使いこなすため
のツールの企画から開発、導入、保守までを請け負います。CAD
作業で直面する様々な困りごとを解決し、品質向上、工数削減、
スピードアップを実現します。

PROJECT

社内プロジェクト

EV Bike Project

失敗の連続を乗り越え 実現した、 世界最高速記録 「329km/h」。

開発専門企業であるモビテックには、
研修の他に、将来を見据えた新領域へ
のチャレンジやノウハウの蓄積などを
目的としたモノづくりの場として「社内
プロジェクト」が複数存在します。ここ
では、「EVバイクプロジェクト」のエピ
ソードを紹介します。

EVバイクプロジェクト
責任者

思い通りにいかないEVバイク開発。

EPISODE 01

「培ってきた技術の具現化」と将来普及が見込まれる電動モビ
リティに用いられる「新しい技術に対するチャレンジ」を目的として、
2011年にプロジェクトをスタートしました。目指す舞台は、アメ
リカにある広大な塩の平原“ボンネビル ソルトフラッツ”で開催
されるスピードトライアル。目標は世界最高速記録の樹立です。
周囲からは「車両開発やバイク設計の実績もない当社にできる
わけがない」といった声も聞こえてきました。約5年のEVバイク

開発期間を経て、初めてレースに臨んだ2016年の大会では、
塩の路面状況の想定が不十分で、発進直後にスリップし転倒。
2017年も荒れた路面に苦戦し車両の性能を発揮できません
でした。2018年には300km/hという超高速走行時に以前から
課題となっていた横揺れが発生し転倒。度重なる自然環境との
闘いと、原因が特定できない高速走行時の横揺れ。それでもプロ
ジェクトをやめようとは思いませんでした。



モビテックだからこそ実現できた世界記録。

EPISODE 02

掲げた目標に達しないまま「諦めてたまるか」という一心で、
2019年の大会を最後の挑戦と決め、強い想いで車両製作を
再開。車体重量が重いほど、高速走行時の振動が増幅するため、
軽量化したドライバーカーボン製のカウルを開発。さらに横揺れ対策
のため、脚回りのセッティングを煮詰めた車両が完成しました。
そして、満を持して臨んだレースで329.319km/hを叩き出し、
悲願のワールドレコード樹立を勝ち取りました。この結果は「これ

までの自動車開発で培った技術」、「技術者の想いを大切にする
会社の風土」、「取引先や社員同士など人との繋がり大切に
してきた会社の風土」、そのすべてが揃ったモビテックだから
こそ実現できた成果だと感じます。「ヒューマンクオリティの
追求」を経営理念に掲げ、プロジェクト活動を通じた人材育成への
投資を続けてくれた経営陣には本当に感謝しています。



Other Project

— EVカートプロジェクト

今後、普及が見込まれる、自動運転や電動化に
関わる技術の習得を目的として、2019年に始動
したプロジェクト。今後プロジェクトを通じてセン
サーを用いた制御技術やAI技術の習得を図り、
自動で走行する電動カートを製作していきます。



— VRプロジェクト

あらゆる事柄を遠隔で実施する場面が増えている中、VR技術
が身近になり、VRへの期待が高まっています。プロジェクト
活動を通じ、VR活用に必要な技術(グラフィック制作、
ハード技術、Unityのコーディング技術)を習得し、デジタル
エンジニアリングの新たな技術領域確立を目指します。



EDUCATION SYSTEM

教育体制



専門教育と実践を通じて、 成長の傾きを高める。



「技術で飯が食えるようになる」、「エンジニアを生涯の仕事にする」…そんなビジョンや価値観を持つモチベーションだからこそ、技術者教育に力を入れています。新入社員研修では新入社員全員が開発に携わる会社だからこそその専門的な研修を実施しています。製図やCADなどの必要なスキルや知識について学ぶ

のはもちろんのこと、実物を「見ながら」「触りながら」学ぶことで、製品の理解を高めます。トランスミッションの分解・組み付けを体験しながら、構造や各部品の繋がりを学んだり、実物のワイヤーハーネスを見ながら、材料や部品の役割を確認したり、図面上の表記と実物を照らし合わせたりすることで、座学では伝わりづらい部分を補い、理解度を向上させます。また、新入社員研修では単に知識だけを学ぶのではなく、技術者として必要な行動を身に付けることにも力を入れています。

[教育STEP]

■ 新入社員研修

社会人としてのビジネスマナーから技術者としての心構え、基礎技術の習得までを実施。



配属希望面談を通じて配属先決定

■ 部署別専門研修

担当する製品知識や業務に関わる知識を専門的に学びます。



■ OJT研修

先輩・上司と行動を共にし、仕事の流れや専門技術など一つずつ理解し身に付けていきます。



■ 階層別教育

等級や役割に応じて専門技術やマネジメントスキルなどを学びます。

[更なる学びの場]

■ フォローアップ講座

自由参加形式の社内講座。先輩社員が講師となり実務に直結する技術を後輩に継承します。

■ 展示会・社外セミナーへの参加

技術者としての知見を広げるため、企業人としての感覚を高めるため、各種技術展示会の見学や社外セミナーを受講できます。

■ 社内プロジェクト

技術力の向上、技術領域の拡大、ノウハウの蓄積などを目的としたプロジェクト活動が複数存在。モノづくりの実践を通じて技術力を高めることができます。

技術者の成長は、実践の場を通じて経験から学び、反省・振り返りを繰り返しながら、一歩ずつ技術者としての道のりを歩むしかありません。では、教育は何のためにあるのか。それは、成長の傾きを高めるためです。当社はエンジニアリング企業として、その成長スピードにもこだわりたい。だからこそ、様々な教育機会を準備し、技術者として、企業人として成長できるように支援しています。

CORPORATE PHILOSOPHY

企業理念

ヒューマンクオリティの追求

昨今、社会変化と共に自動車業界においても多種多様なニーズが生まれ、大きな変革を求められています。このような時代の変化に対応するために我々開発会社に求められるものは、「時代の変化に即した高い技術力」です。

カタチのない「技術」を極めるためには、まずは自分自身が成長すること、これこそが企業理念でもある「ヒューマンクオリティの追求」であり、私たちの使命であると考えます。

VISION

ビジョン

技術で飯が食えるようになる

MISSION

ミッション

自他共に認められる技術者集団であり続けること

顧客のニーズを創造すること

INTERVIEW

モビテック座談会

若手社員4名に集ってもらい、
モビテックの魅力や雰囲気などについて
本音で語りあってもらいました。



Mさん
2019年入社
高専卒
本科 機械電子工学科

Tさん
2016年入社
学部卒
機械工学科

Yさん
2017年入社
学部卒
機械工学科

Sさん
2015年入社
学部卒
機械システム工学科

Q.01 モビテックに入社した理由は？

必ず設計に携わることができる。

Yさん 様々な技術職がある中で、私は絶対に「設計」をやりたいと思っていました。設計ができそうな会社は多かったのですが、2～3年で部署が変わったり、勤務地が変わる会社もありました。そういう点で、モビテックはずっと設計職で、同じ製品や技術領域を担当できそうだったので、魅力に感じました。スキルも人間関係も、長い時間をかけて築いていきたいタイプなので。

Sさん 学生時代には国内で取り寄せられる自動車のカタログは、ほぼ持っているくらい自動車が好きでした。どの部署に配属されても自動車の設計が確実にできるというのが良かったですね。

Tさん 地元が愛知県で大学は東北だったのですが、「愛知Uターン」×「設計職」というポイントでモビテックを選びました。

Mさん 僕はクルマが好きだったので、「クルマの設計が必ずできる!」というシンプルな理由で決めました。当時、高専に届いていた求人票の中でクルマの設計が必ずできるという会社は少なかったと思います。

Yさん 私はそこまでクルマにこだわりはなかった派(笑)。これからモビテックを志望する学生さんも、「クルマ好きは歓迎」ですがそうじゃない方ももちろん活躍できますよ。



リアルな本音で語り合う! モビテック座談会

Q.02 職場の雰囲気は？

コミュニケーションを大切に。 企業の垣根を超えたモノづくり。



Mさん

Tさん

Yさん

Sさん



Sさん 入社してから知ったんですが、自動車の開発って想像していた以上に様々な部署や関連企業の人たちと連携しながら、チームプレイで進んでいくんです。だから、「コミュニケーションを大切に仕事を進めよう」という雰囲気がありますね。

Mさん コミュニケーションは重要ですね!僕は人見知りなので、最初は不安だったんですが、好きなクルマやバイクの話をするうちに、自然に周囲の人と仲良くなれることが多いです。雑談で仲良くなって、結果として業務上のコミュニケーションもスムーズになる気がします。

Yさん 私は思ったよりもフランクな人が多いという印象です。上司は180センチもあってガタイが良い人なので最初怖かったですよ(笑)。それが、とってもフランクにしゃべりかけてくれるので、凄くありがたいです。

Tさん 取引先のメーカーに常駐して働く社員が多いですが、基本的にはモビテックの社員がチームで働いている環境がほとんどなので安心感があります。

Sさん そうそう。私の常駐先には数百名を超えるモビテックの社員が働いています。また、取引先のメーカーの社員との関わりも深く、休みの日は企業の垣根を越えて、一緒に遊びに行ったりしています。

Q.03 ワークライフバランスは？

社員同士の交流が盛んなモビテックで、 プライベートも大切に。

[同好会活動]



●アウトドア同好会



●自動車同好会



●サッカー同好会

Yさん 土日もしっかり休めるし、9連休以上の長期休暇も年3回あります。それに有休は遠慮なく取れる環境です。ワークライフバランスはとってもいいなって感じます。

Mさん 同好会活動も盛んですよ。僕は自動車同好会に入っていて、サーキットに行ったり、山奥にツーリングに行ったりしています。他にも、サッカー・バスケット・ゴルフ・アウトドア・自転車の同好会があります。

Tさん 他にも「全社バーベキュー大会」、「全社ソフトボール大会」、「社員旅行」など、1年を通して社内イベントがたくさんあります。親睦を深める機会が思ったより多く、社員交流が盛んです。そのため、色々な人達と交流が持てて、入社後も安心してた。モビテックはオンもオフも充実した生活を送ることができる環境が整っていると感じますね!

[会社行事]



●全社バーベキュー大会



●社員旅行



●新年祝賀会